

(平成 29 年 5 月試験研究業務月報)

試験研究課題：磯根資源総合管理技術開発研究

研 究

害敵駆除によりアワビの放流効果を向上

京都府では、天然海域にアワビ種苗を放流して資源を増やすアワビの栽培漁業を推進しています。

しかし、放流直後のアワビ種苗は、隠れ場を見つけるまでの間に高い確率でヒトデ類に見つかり食べられてしまいます。そこで、放流前にヒトデ類を駆除することにより、アワビ種苗の生残率の向上を目指しています。

宮津市養老地区に設けた試験区内のヒトデ類を1ヶ月かけて駆除した後、アワビ種苗を放流し、その生残率を調べました。その結果、ヒトデを駆除した試験区では、放流3日後には5～8割が生残していることが分かりました（アワビ種苗は岩の下部に身を隠すため、実際の生残率はもう少し高くなります）。

一方、ヒトデを駆除しない試験区では3～5割の生残率であったことから、ヒトデを駆除することで、放流直後の減耗を軽減することができました。今後も、両試験区で生き残りや成長状況を継続して調べていきます。



駆除したヒトデ



放流種苗の追跡調査の様子